

企画展「新しき演劇を拓く — 小山内薫展」

期間：10月9日(土)～12月26日(日) 会場：中央図書館 2階展示ホール

広島市出身で、演出家、劇作家、小説家として幅広く活動した小山内薫(1881～1928年)が今年、生誕140年を迎えました。中央図書館では、自由劇場や築地小劇場を率い、日本の近代演劇の基礎を築いた小山内薫をご紹介します。企画展を開催します。

小山内は、東京帝国大学在学中に、翻訳を認められて森鷗外主宰の文芸雑誌「万年艸(まんねんぐさ)」へ寄稿するなど、文筆活動に入りました。演劇に対しても強い関心を抱き、雑誌に海外の戯曲や演劇評論を意欲的に紹介し、戯曲の執筆や演出も手がけるようになります。明治42年(1909年)、二代目市川左団次とともに「歌舞伎でもない新派でもない新しい演劇」を提唱し、自由劇場を創立しました。イプセンやチェーホフ、ゴーリキーといった海外の戯曲を中心に上演した自由劇場は、観客からの熱い支持を得て、坪内逍遙、島村抱月らの文芸協会と並ぶ新劇運動の出発点となりました。

大正13年(1924年)には、土方与志らと築地小劇場を興し、演出にあたります。常設の劇場を持ち、「演劇の実験室」であることを掲げる築地小劇場は、俳優の養成にも力を入れ、千田是也や薄田研二、杉村春子ら、戦後の演劇界を担っていく人材を輩出しています。

この間、小山内は多くの戯曲や演劇評論を発表しました。企画展では、演劇関係の著作をはじめ、最初の著書である詩集『小野のわかれ』、自伝的長編『大川端』に代表される小説、さらには、映画やラジオドラマの制作にもいち早く取り組むなどした、小山内の多彩な活躍を示す資料も展示します。

また、企画展期間中に関連行事として講演会を開催します。演劇研究のため、大正元年(1912年)に出発したロシア、ヨーロッパ旅行は、その後の小山内の活動に大きな影響を与えました。戯曲の翻訳や上演、現地での観劇体験といったロシアとの関わりから、小山内の演劇、文学について考えます。

芝居から「演劇」へ、役者から「俳優」へ—日本の新しい演劇を模索し、開拓した小山内薫の足跡に、この企画展でぜひ触れてください。



自由劇場創立頃の小山内薫

講演会 「小山内薫の演劇と文学 — ロシアとの関わり —」

- 講師 溝渕 園子 氏 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)
- 日時 11月21日(日) 14:00～16:00
- 会場 広島市立中央図書館 3階 セミナー室
- 定員 30名(先着順)
- 申込方法 中央図書館への来館、電話、FAX、ホームページの専用フォームからの申込

* 11月2日(火)9:00から受付開始

* 手話通訳・要約筆記が必要な方は、11月6日(土)までにお申し込みください。

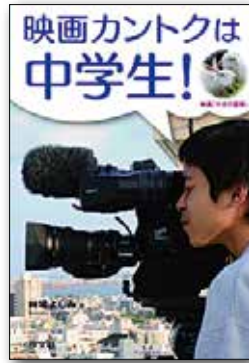


図書館司書がおすすめるこの1冊！「演劇、映画」

児童書

『映画カントクは中学生！』

艸場 よしみ／著
汐文社 2012年



2010年に全国公開された映画「やぎの冒険」。監督は沖縄在住の14歳の少年でした。

小さな頃から、カメラ片手にいろいろなものを撮影するのが好きだった彼は、小学生になると友達と一緒に映画を撮り始めます。実際の映画のロケ現場を見ながら技術や知識を学び、お金がないため撮影機材を手作りすることも。中学1年生の冬、沖縄をテーマとしたドラマ企画の募集に応募したことをきっかけに、監督としてプロの人たちと映画を作ることになります。

映画作りの面白さや大変さとともに、自分のやりたい事、伝えたい事を貫く大切さを教えてくれます。

一般書

『幕が上がる』

平田 オリザ／著
講談社 2012年



地区大会で敗退し、県大会にもいけない公立高校の弱小演劇部。3年生が引退し部長になったさおりは同じ2年生のユッコやガルルと共に演劇部を盛り立てようとするのですが、何もできないまま3年生になってしまいます。

そんな彼女たちの前に東京で演劇経験のある新任の吉岡先生が赴任してきます。演劇部の指導を引き受けてくれた吉岡先生の熱心で的確な指導のもと、さおりたちの演技はどんどん上達していきますが、ある時、思いがけない転機が訪れます。

受験勉強や進路に悩みながらも、演劇に夢中になり成長していく高校生の姿が爽やかに描かれた作品で、映画にもなりました。

この日は何の日？ ～11月1日は日本点字制定記念日～

1825年、フランスのルイ=ブライユは、アルファベットや数字の基本形となる、縦3点・横2列からなる6点式点字を考案します。当時ブライユはまだ若い16歳の盲学校の生徒でした。読むのにも書くのにも適しているブライユ式点字でしたが、すぐに認められたわけではなく、フランスで公式の文字として採用されたのは、彼が亡くなってから2年後の1854年のことでした。

日本では、1890年(明治23年)11月1日に、ブライユ式点字を基として50音を表記した石川倉次の案が採用され、ここに日本点字が完成します。石川倉次は「日本点字の父」と称えられ、2013年(平成25年)には、点字の普及に関する活動を行う、特定非営利活動法人日本点字普及協会が一般社団法人日本記念日協会に申請を行い、11月1日が日本点字制定記念日として認定されました。

広島市立図書館では、どなたでもご利用いただける、点字付きの触る絵本や大きな活字の本などを所蔵しています。また、文字を読むのが難しい方や本を読むのにお困りの方にご利用いただける、カセットブックやデジタル図書(小説などの文学が中心)、マルチメディアデジタル図書(絵本や児童書などが中心)などの録音資料もありますので、お気軽にお尋ねください。

編集・発行

Hiroshima City Central Library
広島市立中央図書館
(公益財団法人 広島市文化財団)
〒730-0011 広島市中区基町3番1号
<https://www.library.city.hiroshima.jp/>

代 表 0 8 2 (2 2 2) 5 5 4 2
本の照会・相談専用 0 8 2 (2 2 2) 6 4 4 0
F A X 0 8 2 (2 2 2) 5 5 4 5
(携帯電話 <https://www.library.city.hiroshima.jp/m/>)
(スマートフォン <https://www.library.city.hiroshima.jp/sp/>)